

『戒名(かいみょう)』 つて何でしょう？

皆様こんにちは。毎年七月は「旧暦のお盆」の時期です。とは言え、富山をはじめ、ほぼ全国的に八月新暦のお盆（「月遅れのお盆」とも呼びます）に法要を行うので、まだ八月の方が馴染み深い。そんな「お盆」の光景に欠かせないのが、お墓に立てられる「卒塔婆（そとば）」じゃないでしょうか。あの卒塔婆に書かれている漢字の羅列のことを『戒名(かいみょう)』と言います。そこで今日のお話は、《仏教「基本のき」》というところで、卒塔婆に書かれている戒名の意義についてお話を頂きます。そもそも戒名と言えば、お葬式の時に頂くイメージがあると思いますが、そんな「戒名つて、いったい何でしょうかねえ？生存中の名前のままじゃダメなのでしょか？」

※このお話はユーチューブ「かんちやん住職」でも詳しく解説していますので、ぜひチェックしてみてください。

仏式の葬儀では、人が亡くなる時、『戒名』と呼ばれる新たな名前を授かります。「戒名」って一般的には、お葬式の時にお付けするイメージがあると思いますが、本来は生きていた間に、出家（仏門に帰衣）した者が授かる名前として、仏の弟子として生きていく約束をした、その証として授かった名前が「戒名」

でした。ちなみに生前中に名乗っている私達の名前を「俗名(ぞくみょう)」と言います。「俗名」の「俗」は、『俗世界の俗』という事です。つまり、俗世間と縁を切るという意味で、「俗名」から「戒名」へと改名したわけです。今では仏式の葬儀で、出家の有無にかかわらず、「戒名」を授かるのが一般的となりました。

先ほどから「戒名」と言っていますけど、仏教の宗派によって呼び方が異なります。多くの宗派では「戒名」と呼ばれますが、浄土真宗では戒を授けることがないので、「法名(ほうみょう)」と呼びます。阿弥陀如来が、私たちをお浄土へ導いて下さる働きを「法」と呼びます。その法のなかに生かされている私たちが、仏弟子の証として頂く名前を、浄土真宗では「法名」と言います。

また私が所属している日蓮宗では、「日蓮上人の教え」を尊ぶという気持ちから、「法號(ほうごう)」と呼んでいます。仏事というものは、一見するとどの宗派も同じように見えますが、宗派によって形態や、意味合いが異なります。近年のお葬式でよく耳にするのが、「生前中の名前の方が馴染みがあるので、戒名はいりません。ぜひ俗名で葬式をして頂けないでしょうか？」と、こうおっしゃる方もチラホラとお見受けします。まあそう思われるお気持ちも分かります。戒名や法名の意味内容を知らなければ、私も同じ様な事を言っているかもしれません。

●【戒律・五戒について】

そもそも「戒名、法名、法號」って何？と仰る方もおられると思います。でも必ず一度は目にしたことがあると思いますよ。葬儀の際に用いる、白木位牌や、仏壇に納める本位牌、あるいはお墓の石碑や、卒塔婆（そとば）などに書かれている、あの漢字の羅列。あれがそうです。戒名の「戒」という文字には戒め（いましめ）という意味があります。「仏戒」といって、仏教において守らなければならない戒律のことです。「戒」は、仏様の覚りを目指して、個人個人が努力精進する、「決まり」のこと。いわば宗教上の掟のことです。一方の「律」は、集団で生活する僧侶の、生活上の規則を守る上でのルールです。これを破ると罰則もあります。つまり戒律とは、守るべき行動規範のことで、在家や出家の違い、男女の性別によっても変わってきます。今では、戒名を亡くなった後に授与されることが多いですが、本来は生きていた間に仏弟子としての証明として授かる名前でした。生前に授かる戒名を「生前戒名」と言って、縁起が良いとされたり、終活として死後に家族に負担をかけないために準備される場合もあります。生前に戒名を受けた人は、これからの自分の人生を、仏教の教えに従ってイキイキと生きることが心がけ、より良い人生をおくる心の支えにするという誓いと願いを「戒名」に込められます。戒名は、戒律を重んじる誓いを立てた者に与えられた名前のことを言います。では、その戒律というのは一体全体どういうものがあるのかということなんです。ちょっと戒名の話から少し脱線してしまいましたが、まあ簡単に説明しますと、男性には250戒、女性には348戒などの修行規則があります。女性の方が98も多く規則が決められているんですよ。現代の男女平等社会では、すぐに女性側からクレームが入りそうですね。いづれにしても、これらをちゃんと守ろうとしたら、箸の上げ下げに始まり、生活の端々に戒律の壁が立ち上がる事になります。このような厳しい決まりは、とても守れるものではありません。そこで根本的な規則を10戒にまとめたり、更に5戒にまとめられるなどして、戒律の考え方も国や時代によって少しずつ変容してきました。ここでは、一般の方が守るべき代表的な5つの規則「五戒」についてだけ、ご紹介させていただきます。

1. 不殺生戒（ふせつしようかい）
生き物を殺さない
2. 不偷盜戒（ふちゆうとうかい）
他人のものを盗まない
3. 不邪淫戒（ふじやいんかい）
不倫や浮気をしない
4. 不妄語戒（ふもうごかい）
嘘をつかない
5. 不飲酒戒（ふおんじゆかい）
お酒を飲まない

どれも簡単なようで、守るのが難しいものばかりだと思います。ただし仏教には、戒律を守れない人でも、すべての人をありのままに救う道も説かれていますので、ご安心ください。さて、戒名という事ですが、五戒のように

「決められた規則を守っていきま
す」と誓いを立てた人に与えられる
名前。それが、本来の「戒名」と
いう概念です。

●【法名について】

次に「法名」です。「法名」とい
うのは、戒律を重んじるのではなく
て、お釈迦様の教えを聞いて、限り
ある命をどう生きていけば良いの
か？ということを考える人に与えら
れた名前。それが法名です。仏様
の教え、仏法を聴くという事です
が、「聞く」という漢字は《聞（も
ん）》と言います。聞は、「問い」
という漢字の“もん”でもありま
す。つまり考えて、そこから問いを
出し、そしてその仏法を聞いて、そ
の答えを求めていく。もしくは仏法
を聞いて、気が付いていこうとする
人に与えられた名前。それが「法
名」と言う事になります。

●【法號（号）について】

そして日蓮宗では、「戒名」のこ
とを法號（ほうごう）と呼びます。
法號も、仏門に入った者、つまり仏
弟子に授けられる名前です。仏弟子
になるといふことは、困っている人
や苦しんでいる人の心に寄り添い、
温かい手を差し伸べる事です。ちな
みに日蓮宗にも戒律が1つだけあり
ます。それが「受持即持戒」という
ものです。つまり、お題目である
南無妙法蓮華経を唱え、『法華経』
の教えを受けたもつ事が、そのま

まま戒律を守ることになるかと教えられ
ています。簡単に言えば、相手のこと
を想って、慈しみや敬いの心を持つ
て、感謝の気持ちで日々の生活を送る
という事です。だからといって、法號
や戒名を授かったその日から、聖人君
子のように生きられるはずもありません。
よく、何を言われても怒らない。
何をされても笑っている。そういう人
を「仏さんみたいな人だ」と言いま
す。まあある意味すごい人ですし、場
合によっては必要な事でもあります。
ただ、私達はAIじゃありません。感
情豊かな人間です。嫌なことをされ
たら怒るし、理不尽なことをされたら反
発もする。嬉しいことがあれば喜ぶ
し、悲しい事があれば涙の1つも流し
ます。感情豊かに喜怒哀楽がある。こ
れが私達人間ですよ。いわば法號を
貰って生きるという事は、人として他
の人の事を考えて、他の人と一緒に感
情豊かに生きていくという事に繋がっ
てきます。

●【感情豊かな人間らしく生きる】

特に私達人間は、本当に怒らねばら
ない時に怒っていますでしょうか？悲
しんで、涙を流さなければならぬ時
に、ちゃんと泣いていますでしょうか？
か？人の喜びの時にちゃんと笑えてい
るでしょうか？怒らなくてもいい時に
怒ったり、ちゃんと怒らなきゃいけな
い時に怒らなかつたり。人が悲しんで
いる時に共に悲しんであげられなかつ
たり、逆に人の悲しみが喜びに変わっ
てしまつたり。そして楽しみも心から
楽しめなかつたり。ともすれば、我々
は喜怒哀楽を出さないように生きてい

るのではないのでしょうか？生きること
に一所懸命になれ！という事は、この
法號をいただいた者の、正しい生き方
です。いま自分がいるその場所で、一
生懸命に生きるという事です。漁師さ
んであれば漁師として生きていく。ま
た農業をして物を育てていく。親とし
て、子供に躰をする。その時に、自分
に与えられたその場所で、一所懸命精
一杯に生きていくということ。 仏教
という1つの軸を持って、戒律を重ん
じるもよし、また仏法の法を聞いて生
き方、自己を見つめていくもよし。そ
うやって生きていくのが、法號・戒
名・法名をもらった人の生き方で御座
います。では、亡くなった後に名前が
付けられるというのはどういう事かと
申しましたら、みんな誰しもが、自分
なりに一生懸命に人生を生きてこられ
たはずです。そんな人生の中には叱ら
れたり、たとえ嫌な事があつても、み
んな歯を食いしばって踏ん張り、上手
くいかなないことがあつても、それを頑
張って乗り越えて、辛いことも悲しい
ことも、また喜びも求めながら一所懸
命に生を全うしていかれました。だか
らこそ、その一生懸命に生きたその証
として、亡くなった後に法號・戒名・
法名を付けて、共に仏弟子として、送
るという事の大きな意味です。そして
また送るこちら側の人間も、故人を想
つて仏壇で手を合わせたり、お墓参り
をするという仏事を行う。困っている
人や苦しんでいる人の心に寄り添い、
手を差し伸べる“利他”の心を持つ
て、感謝の気持ちで生活する機会を故
人から頂いたとも考えられます。とい
うことで、今回のまとめです。

●【まとめ】

宗派によって法號・戒名・法名と呼
び方も考え方も違うけど、そのどれも
が仏弟子として生きていくという決意
の表れという解説をさせてもらいまし
た。そして、そのいずれもが亡くなつ
た後の名前ではなくて、生きている間
に貰う事が大切であるということ。

そこから一生懸命生きるとは一体どう
いう事かということをお話させていた
できました。

来月はお盆の時期でもありますから
【先祖供養（せんぞくよう）】につい
て解説させて頂きます。どうぞお元氣
でお過ごし下さいませ。
皆さまの幸せをお祈り致しております。
南無妙法蓮華経

合掌 副住職 谷川寛敬

